



今年の春闘が例年になくもりあがっていることは、地域の様子からもうかがえ心強い。ここは「ひまわり社宅(緑ヶ丘)」だ。道ゆく人々に、この訴えがほほえましい。社宅のいらかにふりそそぐ春の陽射しが明るさをました。

# インフレ・物価高に

## 主婦の怒りを

### 中央内 政府に要求突きつける

この六、七日にかけ、東京の全電通会館で主婦たちの怒りが爆発した。第十回中央内職者大会に全国から結集した三百二十五人の主婦は、二日間の討議の末、新年度の運動の課題をきめるとともに、「インフレ・物価高をおさえるために、電気・ガスなどの公共料金を凍結せよ」「全産業界一律六万円の最低賃金を確保せよ」など数項目の要求を政府に突きつけた。

中央内職者大会は、昭和四十年の第一回をもってスタートした。はじめは東京など、わずか十都府県で大会がもたれたに過ぎなかったのが、早くも十回を数えるまで歩みつづけてきた。

その主眼点は、もちろん「内職なしで暮らせる家庭生活の確立」で、せめて必要せまられる内職には、それ相当の賃金を補償せよ」と要求しつづけてきた。

さて第十回大会は、内職を奨励するための集会でないことはわかり過ぎており、何はさておき夫たちの大幅賃上げ要求を軸に闘い

期していかねたといわれた。炭車が走ることがわかっていれば、それは定期便だ。

「逃走するかわからない事故に備える」といって保安があり、規程があり、対策があるはず。

三井は、労働者の生命をどう考えているか。問題だ。

このような日常の保安無視のなかで、労働者は次から次へと殺されていった。その元凶を、どこまでも追及しない限り、労働者の生命は絶対に守ることは出来ない。

公判を傍聴して、私は今更の如く職場闘争・地域闘争の必要性を感じたのだ。三井闘争が生んだ意味を少しでも知って頂き、各地に帰られてから運動を広げて頂かなければなりませんので、金眞法廷に入ってください。

私達原告は法廷の外から中に

期していかねたといわれた。炭車が走ることがわかっていれば、それは定期便だ。

期していかねたといわれた。炭車が走ることがわかっていれば、それは定期便だ。

(4)内職、パート従事者の安全衛生、無料健康審査と労働災害の措置と保障を要求し、監督官の増員要求。  
(5)全県に地方家内労働審議会を設置させ、審議会に主婦の代表を入れよ。  
(6)内職者のグループ作りと、パートタイムは労働組合とのいけいを密にし、労働条件の改善と雇用の保障をはかるため、パートの組織化に努めよ。

以上で、闘いを広げること、集まった三百二十五人は固く誓った。

て、食べ方を紹介します。せり、独特の香りと酸味が大众的。ゆでておひたし、あえもの、なべ料理、茶わんむし、吸いもの、てんぷらなどに。保存には塩づけがよいです。根ごととってきて、不要になったピールのパケット、タライ、オケなどに植えるのも重宝します。肥えた土を入れ、せりの根を浅くさし、落葉がワラズなどを表面にのせ、水を十分入れます。栄養的にはカロチンが目立つ程度ですが、漢方ではせりして飲めばリウマチ、神経痛に薬効があるといわれています。

## 野草つみのすすめ

おいしい食べ方  
野草がこう高い時期だけに、七草がゆの習慣は、郊外に出れば食「なすな」「はこべ」についで、なすな、ごきょう……。春の七草をおかぬに入れる習慣は古くから伝わったもので、一年を健康に過ごすようにという折りがこめられていました。

## 闘い誓い帰ってゆ

かれたオルグさん達  
「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

なすな 別名ペンペン草。百グラム中カルシウムが二百八十二ミリグラム含まれ、全食用植物のトップ。食べごろは三月下旬から四月ごろ。おひたし、汁の実、あえものに向きます。

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。

### 大爆発 裁判 第三回公判を傍聴して

## 労働者はやっぱり闘う以外にない

### 退職者 橋本賢人

「三池大爆発裁判」の第三回公判を傍聴して、私達は更に闘いの決意を深めました。

次から次へと続発する災害により、自から保安無視をばくろし、人命を軽視して来た三井。資本に對する、新たな怒りがこみあげて来る。

一月二十五日福岡の空は寒く、

(1)風化砂岩説について  
坑内岩盤が空気にふれ、岩がくずれて坑道に落ち、会社側はそれが岩粉散布のかわりをした、といっている。

何というおそろしいごまかしよ。これが会社がいう、日常保安といふものなのか。

三井鉱山の生命である骨格坑道にこんなことで放置していた不安全要素があったこと、保安規程に定められている事に違反しながら、あたかも正当なものかのような会社側。何ということか。

(2)炭車逃走について  
会社側弁護士は、炭車逃走は予

「CO患者家族」  
まなぶのオルグさんが、今年私達の分會に六名見えましたが、偶然にも、各地の全通の人たちばかりでした。